

図書紹介

◎劣化した熱帯森林生態系の修復 (S. Kobayashi *et al.* (Eds.), Rehabilitation of Degraded Forest Ecosystems, vii+226 p, CIFOR, Jakarta, Indonesia, 2001)

本書は、1999年11月2～4日に、インドネシアのボゴールにおいて、上記のタイトルのもとに行われた、CIFORによる研究プロジェクトの成果報告会記録である。

ごく近い将来、地球上から消滅が危惧されるほど、熱帯天然林の減少が進んでおり、これに対処するには、今となってはすべて手遅れの感がある。しかし、劣化し、放置されてはいるが、まだ利用が期待できる森林を再生・修復し、来るべき将来に備えることは、木材需要がなくなる以上、最低限必要なことであると同時に、環境の悪化を防ぐ上からも重要と思われる。

一方、もっとも問題なのは、森林の崩壊あるいは劣化の過程に関して、ほとんど記録が残されていないまま事態が進行していることであり、気づいたときには、多くの貴重な資料や情報が失われていることである。

劣化した森林再生・修復には、当然ながらそれに相応しい技術の確立が必要であるが、それには自然条件下での長期にわたる観察・調査ばかりでなく、フィールド実験（これも初期の結果を含め、一定の成果を得るまでにはしばしば長くかかる）からの基礎的データを十分に蓄積して、はじめて可能になるであろう。しかし、現実には再生・修復に関して、さまざまな応急対策や試みがなされており、これに基づくデータもかなりの量が集積されていると推測される。一般には目にふれにくいものも含めて、これらをまとめ容易に利用しうる状態にすることも、また重要であると思われる。

本書は、緒言（これには考えるべきあらゆる事柄が述べられている）、第1部（木材収穫作業や森林火災の生態系に及ぼす影響の評価—9題）、第2部（伐採が行われた森林や劣化した林地に対する修復方法の開発—7題）、第3部（劣化した林地に対する造林技術の開発—7題）、第4部（劣化した森林生態系の修復に関するネットワーク作り—2題）からなる。研究の舞台となったのは、東南アジアの3ヶ国、南アメリカの3ヶ国、コンゴ、ニューギニアなど、全世界の熱帯地域にまたがっている。関心を持たれている方々にぜひ一読を勧めたい。（CIFORに申し込めば無料で入手できます。）

（小久保醇）